

製品・サービス動向-国内

■ヤマハ：オープンスペースから小・中規模の会議室まで対応する、USB/Bluetooth 搭載のスピーカーフォン「YVC-330」発売

(10月7日)

ヤマハ株式会社 (<https://jp.yamaha.com/>) (静岡県浜松市)は、USB/Bluetooth 対応のユニファイドコミュニケーションスピーカーフォン「YVC-330」を11月下旬に発売する。



YVC-330 (ヤマハ)

YVC-330は、チームコラボレーションに重心をおいた働き方やオフィス空間の変化に対応し、騒がしいオープンスペースから小・中規模の会議室まで、オフィスのあらゆるシチュエーションで快適な遠隔会話体験を実現する。

ヤマハは、今回、音声信号処理技術「SoundCap」を開発し、YVC-330に搭載。SoundCapは3つの機能を複合的に組み合わせ、オープンスペースが持つさまざまな環境課題を解決する。

(1) 收音範囲制限機能：本体に内蔵された複数のマイクを用いて、音の発生源と本機の距離を高い精度で推定することで、本体近くの発話者の声を收音する一方、会議に不要な周囲の雑音を抑制する働きをする。

これにより発話者の声を明瞭に相手側へ届けることが可能になる。

(2) マイク自動ミュート：発話者の発言状態を認識し、自動でマイクミュート・ミュート解除を行う。周囲の騒音を相手に届けることを防ぎ、発言する人がマイクミュート・ミュート解除を都度操作する必要がなくなる。相手側もノイズに邪魔されることなく会話に集中できる。

(3) 周囲の騒音の大きさに合わせて、スピーカー音量を常に適切なボリュームに調整し、相手側の声を聞き逃すことや、スピーカーからの音が大きくなり周囲に迷惑をかけることを防ぐ。

これらの機能を組み合わせることで SoundCap は、オフィスにおける周囲の環境音により会話の妨げになるようなオープンスペースでも、雑音を抑制することで発話者の声を明瞭に相手側に届け、快適な遠隔会議を可能にする。



オープンスペースでの SoundCap 効果イメージ (ヤマハ)

一方、会議室など周囲に騒音が少ない環境では、スタンダードモードを使用し、6名程度の中規模会議で快適に使える。YVC-330は、3つの高性能マイク（単一指向性）を搭載し、話者追尾機能により会議参加者の声を明瞭に集音する。また、USBバスパワーでクラス最大の豊かな音量（瞬間最大91dB）で、相手側の声

を聞き逃すことがない。

YVC-330 は、PC などとの接続に専用ドライバーは不要で、USB ケーブルでつなぐと Plug-and-Play ですぐに使い始めることができる。また、オプションの連結ケーブルで 2 台を連結接続することで 10 名規模の遠隔会議にも対応可能となっている。

また USB、NFC 対応 Bluetooth、ステレオミニ入力の多様なインターフェイスを備え、スマートフォンやタブレット、ビデオ会議システムなどとも柔軟に接続することができる。さらに、「USB+Bluetooth+ステレオミニ入力」の同時使用も可能となっている（オーディオミキサー機能）。

さらに、USB 給電による駆動で持ち運びができるサイズ・デザイン（本体サイズ：235(W)x46(H)x226(D)mm、質量：0.8kg）のため、「空いている会議室やオープンスペースに持ち込んで、スマートフォンと接続して即席の電話会議」など、ユーザの自由な使い方にも柔軟に対応する。



会議室での使用イメージ（ヤマハ）

発売は 11 月下旬を予定。価格は 60,000 円（税抜き）。色はブラック。

なお、ヤマハでは、ユーザの利用環境で検証できる YVC-330 の貸出サービス（無料）を 11 月上旬より開始する予定。また、同社デモルーム（東京）でも 11 月上旬より本機を体験できるようにする。

※デモルーム・無料貸出

<https://sound-solution.yamaha.com/support/uc/experience/>

■フェアユース：Web 会議、フェイス to フェイス会議に活用できる「リアルタイム翻訳ツール for All Meetings」をリリース

（@Press：9 月 30 日）

フェアユース株式会社 (<https://fairuse.jp/>)（東京都渋谷区）は、このたび「リアルタイム翻訳ツール for All Meetings」をリリースした。



リアルタイム翻訳（フェアユース）

リアルタイム翻訳ツール for All Meetings は、「Microsoft Teams」「Skype for Business」「Zoom」「Cisco Webex」などの Web 会議のほか、フェイス to フェイスで会議を行う場合に、リアルタイムでの音声からのテキスト翻訳や文字お越しを行うことができる。翻訳内容および文字お越し内容は CSV ファイルとして保存する。Windows 上にインストールして利用する形となっている。

これまで同社は、Skype for Business の API の知見を活かし、Skype for Business の利用時に同時翻訳を実現する「リアルタイム翻訳 for Skype for Business」を提供してきた。先日、マイクロソフト社から Skype for Business Online の 2021 年 7 月 31 日の終了の発表があり、多くの既存顧客から他の Web 会議やフェイス to フェイスでの会議でも利用ができるようにとの要望があり、今回の製品リリースとなった。

今後は、Microsoft Teams のアプリとして提供することや、文字お越しの内容を議事録として適切な

フォーマットで出力すること、Microsoft Exchange などの他のアプリケーションと連携して動作させることも検討している。加えて、マルチデバイス対応として iOS や Android でのモバイルアプリの開発も進めているという。

■バッファロー：水平視野角約 120 度の広角レンズ搭載で、Web 会議に便利な 200 万画素 Web カメラ発売

(10月9日)

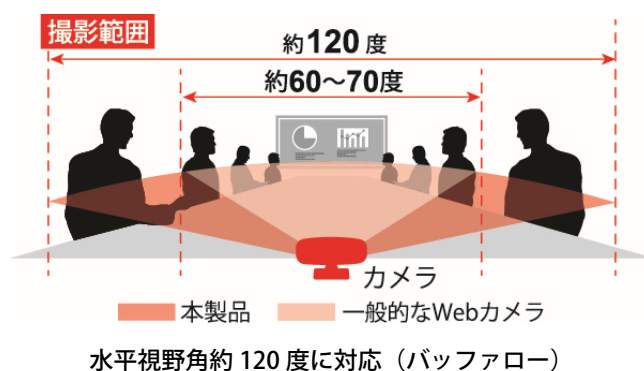
メルコホールディングスグループの中核企業である株式会社バッファロー (<https://www.buffalo.jp/>) (愛知県名古屋市) は、水平視野角約 120 度の広角レンズを搭載する 200 万画素 Web カメラ「BSW500MBK」を発売。



BSW500MBK (バッファロー)

本製品は、USB Type-A 端子を標準搭載する Windows10/8.1/7 パソコンおよび Mac に対応する Web カメラ。

従来の Web カメラでは難しかった複数人同時参加の Web 会議にも対応可能な、水平視野角約 120 度の広角レンズを搭載している。200 万画素 CMOS センサーを搭載し、フル HD/30fps に対応しており、高解像度かつ滑らかな動画撮影が可能となっている。また、内蔵マイクも搭載しており、別途マイクやヘッドセットなどを用意する必要がなく Web 会議が行えるようになっている。



レンズ部には開閉可能な「プライバシーシャッター」を装備。万が一のハッキングによる盗撮や消し忘れによる映像流出防止のほか、レンズの汚れや傷の防止にも役立つ。

その他、顔認証で自動ログインできる「フェイスログイン」、動き検出技術により Web カメラを家のセキュリティに使用できる「監視モード」、パワーポイント資料と Web カメラ撮影を合わせたプレゼンテーションビデオが作成できるなど、Web カメラを活用したさまざまな機能に対応している。

なお、Web カメラ用拡張ソフトウェア「CyberLink YouCam6 BE」もバンドルされている。利用にはダウンロードのためのインターネット環境が必要となる。

10 月下旬より順次販売開始する。価格はオープン。

■NTT コミュニケーションズ：Microsoft Teams に対応した外線通話機能「Direct Calling for Microsoft Teams」とクラウド型 Web 電話帳「連絡とれるくん」との連携サービスの提供を開始

(9月27日)

NTT コミュニケーションズ株式会社 (<https://www.ntt.com/index.html>) (東京都千代田区) と日本マイクロソフト株式会社 (<https://www.microsoft.com/ja-jp>) (東京都港区) は、日本マイクロソフトのクラウドサービス「Office365」

におけるチームコラボレーションのハブである「Microsoft Teams」を活用した働き方改革ソリューションに関する連携を拡大する。

第一弾として、NTT コミュニケーションが、Microsoft Teams に対応した外線通話機能「Direct Calling for Microsoft Teams」を2019年12月より提供する。また、クラウド型 Web 電話帳「連絡とれるくん」との連携も実現することで、Microsoft Teams 上からワンクリックで外線通話を可能にする。連絡とれるくんは、株式会社 Phone Appli(<https://phoneappli.net/>) (東京都港区)の国内市場シェア1位(MM 総研調べ)を誇るクラウド電話帳サービス。



サービスイメージ (NTT コミュニケーションズ)

チャット・ビデオ通話・外線通話などビジネスに必要なあらゆるコミュニケーションを Microsoft Teams に集約させることで、シームレスかつ場所にとられないコラボレーションを実現でき、企業の働き方改革をさらに加速することができるとしている。

これまで両社は、日本マイクロソフトのクラウドプラットフォーム「Microsoft Azure」と、NTT コミュニケーションズのクラウドサービス「Enterprise Cloud」を効果的に組み合わせたハイブリッドクラウドサービスの提供や、「Office365」を中心とした働き方改革ソリューションなどを通じて連携してきた。今回、デジタルデータを活用したさらなる働き方改革の実現に向けて、両社の連携を強め、新たなソリューションを提供することになった。

両社は、今後もサービスの共同開発やマーケット戦略の共有などにおいて連携を強化し、先進的なソリューションを展開することで、さらに多くの顧客の働き方改革の推進に貢献していくとしている。

今回発表されたサービスの提供開始は12月から。

■NTT ドコモ：Microsoft Teams アプリと固定電話・携帯電話との通話が可能なクラウド型電話ソリューションを提供開始

(10月1日)

株式会社 NTT ドコモ (<https://www.nttdocomo.co.jp/>) (東京都千代田区)は、日本マイクロソフト株式会社 (<https://www.microsoft.com/ja-jp>) (東京都港区)のクラウドサービス「Office365」におけるチームコラボレーションのハブである「Microsoft Teams」に、固定電話や内線電話などの従来の電話システムを接続させるクラウド型電話ソリューションを、10月1日より提供開始する。

今回、ドコモが提供するソリューションは、Microsoft Teams のアプリを入れた PC やスマートフォン、タブレットから、固定電話番号で発信ができる音声通話サービスを提供するもの。

また、ドコモが提供する全国型モバイル内線サービス「オフィスリンク」を含む、ユーザが現在利用中の既存の従来電話システムと Microsoft Teams の音声通話サービスを接続することで、2つの音声通話環境間での相互通話も可能となる。

これにより、自宅や出張先など場所を選ばず PC やスマートフォン、タブレットから会社の電話番号を利用した発信が可能になるため、在宅勤務やリモートオフィス勤務などの他用な勤務形態の導入、働き方改革を通じた生産性の向上が期待できるとしている。



Microsoft Teams アプリと固定電話・携帯電話との通話が可能 (NTT ドコモ)

加えて、本ソリューションによって、各事業所への電話交換機 (PBX) の設置が不要になることから、設備面でコストの削減が可能になる。また、本ソリューションの電話システムを構成する上で重要な仲介装置 (SBC) をクラウド上に構築することで、固定資産やメンテナンスコストを最小化できる。

ドコモとしては、急激な電話システムの変更に伴う各種リスクを最小限におさえるために、従来の電話システムと相互通話可能なクラウド型電話システムの導入を提案することにより、ユーザの電話環境の段階的なクラウド移行を支援する。



提供範囲と将来的な構成 (NTT ドコモ)

なお、ドコモはこれまで、「オフィスリンク+ (Phone Appli for オフィスリンク)」と日本マイクロソフトの「Skype for Business Online」のサービスを組み合わせたテレワークソリューションを提供してきた。日本マイクロソフトの Skype for Business Online サービスが2021年7月31日に終了することを受け、後継サービス Microsoft Teams を利用した上記のソリューションを発表することになった。

■ ブイキューブ、テレキューブ、オカムラ：コミュニケーションブース「TELECUBE by OKAMURA」の四人用の発売開始

(9月30日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区) とテレキューブ株式会社 (<https://telecube.co.jp/>) (東京都千代田区)、株式会社オカムラ (<http://www.okamura.co.jp/>) (神奈川県横浜市) の三社は、共同で開発したコミュニケーションブース「TELECUBE by OKAMURA」の四人用を2019年10月より発売開始する。また、設置場所やさまざまな用途にあわせてコーディネートできるよう外装のバリエーションを追加した。



TELECUBE by OKAMURA 四人用 (ブイキューブ)

TELECUBE by OKAMURA の四人用は、これまでの一人用、二人用の提供を通じて、より多人数向けへの要望があったため、新型としてラインナップした。

また、外装のバリエーションとして、クロスパネルで構成される従来のスタンダードタイプに加え、ドアのある入口面と奥面にガラスを採用した開放感の高いクリアタイプを追加した。さらに、パネルは従来のホワイトとブラックに加え、木目3色とラスティックグレー2色を追加した。

オフィス内をはじめオフィスビルエントランス・駅・

商業施設などの公共空間など、さまざまな場所に設置され、用途も多様になってきた。7色のパネルを組み合わせて、設置場所や用途に合わせて空間とコーディネートしやすいワークブースを選択できる。

サイズは、一人用が「1200W x 1200D x 2315H」、二人用が「2400W x 1200D x 2315H」、四人用が「2000W x 1600D x 2315H」となっている。価格はオープン。

※関連記事：2018年10月31日号

■ブイキューブとオカムラ：コミュニケーションブース「テレキューブ」オフィス設置用サブスクリプションモデルを提供開始

(10月10日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区) と株式会社オカムラ (<http://www.okamura.co.jp/>) (神奈川県横浜市) は、コミュニケーションブース「テレキューブ」オフィス設置用サブスクリプションモデルを、10月下旬より提供開始する。ブイキューブが提供元となり、販売はブイキューブとオカムラ(両社の販売パートナーを含む)より行う。

テレキューブは、提供開始した2017年8月より、JR東日本や私鉄各社の駅、オフィスビルエントランスに公共空間向けモデルの導入が進んでおり、また、働き方改革に取り組む企業のオフィス内にはオフィス設置用モデルの導入が進んでいる。

ただ、昨年対比で10倍以上導入台数が伸びている一方で、導入を検討する企業からは、初期コストがハードルになっている、導入後の利用イメージをつかみたいといった声が多くあり、手軽に導入を開始できるプランに対する要望が高まっていたという。そのためこの度、オフィス設置用サブスクリプションモデルを提供開始することとなった。

テレキューブは大規模な工事を必要とせず、手軽設

置ができるため、オフィスの空きスペースを有効活用できる。また、サブスクリプションモデルを導入することで、会議室の増築や減価償却コストを抑えることが可能となっている。一人用が月額69,800円～、二人用が109,800円～利用できる。

製品・サービス動向-海外

■アバヤ社：UC/CCの柔軟な使用モデルを実現する月額・年額制のサブスクリプションプログラム「Avaya IX Subscription」を発表

(DreamNews：10月11日)

アバヤ社(<https://www.avaya.com/jp/>) (米国・カリフォルニア州) は、クラウド・ハイブリッド・オンプレミスのUC/CCソリューションで柔軟な使用モデルを実現する、月額・年額制のサブスクリプション「Avaya IX Subscription」を発表した。

Avaya IX Subscriptionによって、エンタープライズ顧客は、アバヤのユニファイドコミュニケーション(UC)/コンタクトセンター(CC)製品を簡単に購入し使用することができ、またその使用量を柔軟に拡大することが可能になっている。

サブスクリプションによって、運用の俊敏性の向上、予算管理・購入プロセスの合理化、新規サービス/ユーザ追加時の最大限の柔軟性、ビジネスリスクの低減などさまざまなメリットがあるとしている。

Avaya IX Subscriptionは、常に最新のソフトウェアを利用することができ、アバヤのサービス部門のサポートも利用できるようになっている。最大20%増のサブスクリプション・ユーザー数の変更も追加料金なく設定も可能になっている。

アバヤ社は、ライセンスの下取りとアップグレードも提供する。顧客企業は既存の永続ライセンスを下取りに出すことで、サブスクリプションの支払いに利

用可能なクレジットを取得することができる。クラウドへの移行も支援できるとしている。

また、アバイアの最新版ソフトウェアを使用していない企業であれば「Avaya OneCloud」または「Avaya IX」のオンプレミス・ソフトウェアへのアップグレードが可能な「Experience Avaya」プログラムも利用できる。このほか、アバイアの「Device as a Service」プログラムを活用すれば、Avaya IX デバイスの製品ラインのサブスクリプションを Avaya IX Subscription の毎月の支払いに追加できるようになっている。

なお、全ての Avaya IX Subscription には、チームコラボレーション/会議用のクラウドベースの強力な最新プラットフォーム「Avaya IX Spaces」が提供される。この Avaya IX Spaces は、音声・動画・タスク・共有などの機能を単一のソリューションにシームレスに統合しており、モバイル端末・デスクトップ・電話・室内用システムなど、場所やデバイスを問わず、容易にアクセス可能となっている。

ビジネス動向-海外

■アバイア社：クラウドへの移行加速に向け RingCentral 社との戦略パートナーシップを発表

(Dreamnews：10月10日)

アバイア社(<https://www.avaya.com/jp/>) (米国・カリフォルニア州) は、RingCentral 社 (<https://www.ringcentral.com>) (米国・カリフォルニア州) との戦略的パートナーシップ締結を発表した。

RingCentral 社は、グローバルなエンタープライズクラウド・コミュニケーション/コラボレーション/コンタクトセンター製品を提供するリーディングプロバイダー。

今回のパートナーシップにより、RingCentral 社がアバイアの独占的な UCaaS ソリューションプロバイダー

になり、アバイアは今後、最新のグローバルな UCaaS ソリューションである「Avaya Cloud Office by RingCentral」を提供する予定 (2020 年第 1 四半期) となっている。

この Avaya Cloud Office によって、アバイアのポートフォリオは拡大し、顧客企業 12 万社以上、UC 回線 1 億件以上、CC ユーザ 500 万人以上から成る、世界 180 か国以上のグローバルな顧客基盤に対し、UC・CC・UCaaS・CCaaS のフルスイートソリューションを提供する形になる。

RingCentral 社の UCaaS プラットフォームとアバイアのテクノロジー、サービス、移行能力を組み合わせることで、高度に差別化された UCaaS ソリューションを実現するとしている。これにより、アバイアとしては、新たな成長機会を生み出し、株主に資本を還元し、バランスシートのレバレッジを解消する狙いがある。

これにあわせて、アバイアとのパートナーシップで、RingCentral 社は 5 億ドルを拠出する。

そのうち 1 億 2,500 万ドルの投資は、1 株あたり 16 ドルで交換可能な 3% の償還優先株式で、転換株式数ベースでアバイアの約 6% のポジションに相当する。RingCentral 社はさらに将来的な支払いと特定のライセンス権を目的とした主に株式による 3 億 7,500 万ドルの前払金をアバイア社に支払う。

一方、アバイア取締役会の承認を受けた自社株買戻しプログラムの下、アバイアは最大 5 億ドルの同社普通株を購入することができるようになる。加えて、タームローン B の下、2 億 5,000 万ドルの不良債権元本を支払う計画も発表した。

今回の取引は、慣習的な完了条件と規制当局の承認に基づき、2019 年(暦年)第 4 四半期中の完了を予定している。なお、両社の取締役会は本取引について全会一致で承認している。また両社の株主の承認は不要となっている。

■Mitel 社：同社社長兼 CEO に、元ポリコム社 CEO Mary T. McDowell 氏を任命

(10月15日)

Mitel 社 (<https://www.mitel.com/>) (カナダ・オタワ) は、同社社長兼 CEO に、Mary T. McDowell 氏を任命したことを発表。

Mary T. McDowell 氏は、Polycom 社 CEO とボードメンバーを直近で勤めた。コミュニケーションと関連技術における造詣が深く、グローバル企業を成長に導いた実績が買われた形だ。ポリコム社の戦略事業の変革 (strategic operating model transformation) を実行することで同社の収益力をさらに向上させ、2018 年にプラントロニクス社への売却を成功へ導いた。

ポリコム社に入社する前は、McDowell 氏はノキアでエグゼクティブ・バイス・プレジデントを務め、150 億ドル規模のフィーチャーフォン事業や、ノキアの開発者向けアプリストア事業の責任者でもあった。コンパックやヒューレットパッカードなどでの経歴も持つ。その他では、現在 Autodesk 社や Informa 社などのボードメンバーでもある。

退任する Rich MacBee 氏は約 10 年近く社長兼 CEO として在籍した。同社にとって戦略的転換期のかじ取りを行い、オンプレミス PBX のパイオニアからクラウドコミュニケーションのリーディング企業への転換を果たした。

PR

■ヤマハ株式会社



ユニファイド
コミュニケーション
スピーカーフォン YVC-200

<https://sound-solution.yamaha.com/products/uc/yvc-200/index>

セミナー・展示会情報

<国内>

■ブイキューブセミナー情報 (10月~11月)

「災害現場の今を共有出来ていますか? 災害発生の混乱時、意思決定のスピードと質を向上」、ブイキューブ 東京オフィス見学ツアー、<スマートグラス体験セミナー> ハンズフリーで現場作業を遠隔支援!、“従来比 1/3 のコストで導入できる” V-CUBE Box 体験セミナー、など
会場：(東京・大阪・Web セミナー)

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

■手軽にはじめられるテレビ会議・Web 会議システムのご紹介~RICOH UCS で、いつでも・どこでも、だれでも・だれとでも繋がります!~

日時：10月23日(水) 15:00~16:00 (受付：14:45~)

会場：リコージャパン (東京都中央区)

主催：リコージャパン株式会社

詳細・申込：<https://www.rcc.ricoh-japan.co.jp/event/seminar/19S043.html>

■働き方改革（ワークスタイル変革）実践事例セミナー
～コミュニケーション・コラボレーション変革からはじめ
る働き方改革～

日時：10月24日（木）14:00～16:00（受付：13:30～）
会場：リコージャパン（東京都中央区）
主催：リコージャパン株式会社
詳細・申込：<https://www.rcc.ricoh-japan.co.jp/event/seminar/19S047.html>

■失敗しない！テレビ会議リプレイセミナー

日時：11月13日（水）開場：13:30 開会：14:00
会場：ベルサール神保町（東京都千代田区）
主催：VTV ジャパン株式会社
詳細・申込：<https://www.vtv.co.jp/seminar/1911vtv/>

■失敗しない！テレビ会議リプレイセミナー

日時：11月22日（金）開場：13:30 開会：14:00
会場：アットビジネスセンターPREMIUM 大阪駅前（大阪府大阪市）
主催：VTV ジャパン株式会社
詳細・申込：<https://www.vtv.co.jp/seminar/1911vtv/>

■待ったなし！クラウド活用でテレワークに備えよ！

いつでもどこでもセキュアなテレワーク！
コミュニケーション&コラボレーションの常識が覆る！！
日時：10月24日（木）13:30～17:00（受付 13:00）
会場：AP 東京・丸の内 Room：A+B+C
主催：ユニアデックス株式会社
共催： Zoom Video Communications, Inc.、ポリコム
ジャパン株式会社
詳細・申込：
https://www.uniadex.co.jp/event/2019/20191024_workstyle.html

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。
CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。よろしければご参照ください。

■フェイスブック（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（CNA レポート・ジャパン）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<http://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

CNAレポート・ジャパン 2019年10月15日号おわり

ホームページ：<http://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp